

巻 頭 言

外国人の受け入れ実態をどう見るか

わが国で暮らす外国人が急増し、その存在感も高まっている。総務省によれば、今年の1月1日時点の外国人住民は367.7万人（前年比+10.7%）と、人口（1.24億人）の約3%に達している。また、増加ピッチを見ても、ここ3年間は前年比10%超の伸びを続けている。日本人の人口が足元で前年比1%近く減少していることを踏まえれば、今後外国人比率が上昇することは不可避だ。こうした観測の高まりなどが外国人の受け入れに対する不安を高めているが、日本の外国人比率はG7諸国の中では最も低い水準だ。

それでは足元の雇用に与える影響はどうか。厚生労働省の「外国人雇用状況の届け出状況」（昨年10月時点）によれば、外国人労働者は230.3万人と、過去15年間で4.1倍に伸び、業種別に見ると、製造業（59.8万人）、卸売・小売業（29.8万人）、宿泊業・飲食サービス業（27.3万人）で全体の5割以上を占めている。また、増加率で目立つのは、医療・福祉（15年で23.7倍）、建設業（同15.5倍）だ。ただ、直近の日銀短観の雇用人員判断DIが、外国人労働者が目立つ宿泊業・飲食サービス業で▲62、建設業で▲60に達するなど、深刻な人手不足になっている。また、医療・福祉関連の有効求人倍率も、介護サービス事業者（3.5倍）のように全体（1.2倍）を大幅に上回る。これらのデータからは、外国人労働者が日本人の雇用を奪っているというよりも、人手不足の業界で一定の役割を果たしていると見ることができるのではないか。

次に、主な在留資格ごとに国籍別の労働実態を見ると、大半の資格においてアジア諸国からの労働者が9割以上を占めており、多様化が進んでいない（表）。アジア諸国が事実上の対象である特定技能・技能実習もさることながら、専門性を要する業務に従事する「技術・人文知識・国際業務（技人国）」の在留資格についても、ベトナム・中国を筆頭とした一部のアジア諸国が大半を占める。また、技人国の上位5カ国は留学生の上位5カ国と概ね同じで、これらの国々からの日本への留学生がそのまま日本に就職するという傾向があることが窺える。一方、高度専門職（2.9万人）は2019年からの5年間で約2倍に伸びているが、外国人

全体に占める割合は1%未満だ。国籍別に見ると、辛うじて米国が5位に入っているものの、アジア諸国の割合はむしろ上昇している状況だ。これを見ると、高いスキルを持つ外国人人材の受け入れ増と国籍の多様化が、わが国の課題だと思われる。長年の懸案とされる英語が堪能な人材の育成や管理職の国際経験の強化などの取り組みを通じて、多様な属性を持つ高スキル人材が日本企業に流入・定着し、外国人と日本企業の双方に利益をもたらすことが求められよう。また、前述の傾向を踏まえれば、受け入れ留学生の増加と多様化が、技人国を中心とした専門性を要する業務に従事する人材の拡充に寄与しよう。

現在わが国では、外国人の引き起こすトラブルなどに過度に目が向いており、議論は外国人に対する規制強化に傾きがちだ。ただ、むしろ今求められるのは、既に日本社会の一員となっている外国人の包摂と、今後の日本経済の活性化に資する外国人の受け入れ方について、地に足のついた議論を進めることではないか。折しも日本で学んだ技術を母国に持ち帰って活用するという趣旨だった技能実習制度が、従来よりも長期間の就労を前提とする育成就労制度に衣替えすることとなる。この機を捉えて、外国人労働者や受け入れ企業に対する相談・支援の強化など、日本で働く外国人が日本社会により溶け込みやすくする施策の推進にエネルギーを傾けることが肝要だ。今般発足した新政権と野党各党による冷静かつ前向きな議論の進展と具体的な取り組みに期待したい。■

表：外国人の在留資格別内訳（2024年12月）

（単位：万人）

	合計	高度専門職	経営・管理	技術 人文知識 国際業務	留学	特定技能	技能実習	その他 (永住者等)
全体	376.9	2.9	4.2	41.9	40.2	28.4	45.7	213.7
アジア 比率	86.4%	88.4%	93.6%	91.8%	93.2%	99.9%	99.9%	79.3%
1位	中国 87.3	中国 1.9	中国 2.2	ベトナム 10.8	中国 14.1	ベトナム 13.3	ベトナム 21.2	中国 54.3
2位	ベトナム 63.4	インド 0.1	ネパール 0.3	中国 10.4	ネパール 8.5	インドネシア 5.4	インドネシア 10.1	韓国 36.5
3位	韓国 40.9	台湾 0.1	韓国 0.3	ネパール 4.0	ベトナム 4.6	フィリピン 2.8	フィリピン 4.1	フィリピン 25.9
4位	フィリピン 34.2	韓国 0.1	ベトナム 0.3	韓国 2.6	ミャンマー 2.3	ミャンマー 2.7	ミャンマー 3.6	ブラジル 21.0
5位	ネパール 23.3	米国 0.1	パキスタン 0.3	スリランカ 1.6	スリランカ 1.5	中国 1.8	中国 2.6	ベトナム 13.1

（出所）出入国管理庁「在留外国人統計」